

# 乳児保育

## I・II

編著

後藤由美 菊地篤子

中山書店

# 序

乳児保育は、平成29年に改定された保育所保育指針で新たな視点が設けられ、さらに、こども家庭庁の設立に伴い子どもに関する制度が整えられたように、社会背景の変化と連動して整備され続けている教科目です。つまり、これからの時代における子どもや子育て支援に大きな変革がもたらされ、保育施設をはじめとする保育者にとっても重要な時期の学びといえます。本書はそのような時代の流れに応じた最新の情報を基に、乳児保育にとって必要な知識や技術がまとめられています。

本書は保育者をめざす学生の皆さんが乳児保育について学び、理解につながるよう事例を多く取り入れ、少しでも子どもの姿や保育者の関わりをイメージできるようにしました。さらに、厚生労働省から出されている保育士養成課程に即して構成しており、講義編と演習編に分けて記載することで乳児保育Ⅰ・Ⅱの授業をこの1冊で対応できるようにしてあります。講義編で理論を学び、演習編では実際に実践できるよう図を多くし、わかりやすくしました。各章にワーク(演習問題)も作成しましたのでご活用ください。

「乳児保育」は、保育所保育指針のなかでは「乳児」「1歳以上3歳未満児」に分けて明記されます。また、保育士養成課程における「乳児保育Ⅰ・Ⅱ」では「乳児保育」は、3歳未満児を念頭においた保育を示すとされています。そのため、本書では0～3歳未満児までの保育ととらえて構成してあります。

乳児保育が行われている場は年々増加しており、新たな課題にも直面しています。そのため、従来の保育施設のみならず保育士が活躍する新たな場についても述べました。

これからの子どもを取り巻く環境や社会情勢の変化に伴い、乳児保育への期待は増すことと思います。乳児保育を通して保育者をめざす学生や、すでに保育の場で活躍されている保育者の方々にも本書をご活用いただけると幸いです。

最後に、中山書店の皆様には、編集作業にあたりご尽力賜りましたこと、誠に感謝申し上げます。

名古屋柳城短期大学  
後藤由美

名古屋柳城女子大学  
菊地篤子



# 目次 Contents

## 講義編

- 1 乳児保育とは ..... 後藤由美 2  
乳児保育の目的と意義 / 乳児保育の歴史の変遷
- 2 乳児保育を取り巻く社会的環境 ..... 市野繁子 12  
乳児保育の役割と機能 / 乳児保育における養護と教育
- 3 乳児保育が営まれる多様な場 ..... 菊地篤子 24  
保育所における乳児保育 / 保育所以外の児童福祉施設(乳児院など)における  
乳児保育 / 地域型保育事業における乳児保育 /  
3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場
- 4 0歳児の発育・発達と保育 ..... 後藤由美 34  
0歳児の発育と発達 / 0歳児の保育における援助と配慮
- 5 1歳児の発育・発達と保育 ..... 松園直美 42  
1歳児の発育と発達 / 1歳児の保育における援助と配慮
- 6 2歳児の発育・発達と保育 ..... 鬼頭弥生 50  
2歳児の発育と発達 / 2歳児の保育における援助と配慮
- 7 移行期の子どもへの関わり ..... 菊地篤子 58  
2歳児クラスに在籍する3歳児 / 集団形成への配慮 / 移行期の環境的配慮

<b>8</b>	<b>乳児保育における連携・協働</b> ……………	山下晶子	66
	職員間の連携・協働 / 保護者との連携・協働 / 地域や諸機関との連携・協働		
<b>9</b>	<b>乳児保育における基本的生活の援助</b> ……………	後藤由美	76
	基本的生活の援助 / 乳児保育に適した環境		
<b>10</b>	<b>乳児保育における健康支援</b> ……………	鈴木幸子	82
	健康面への配慮・援助 / 配慮を必要とする子どもへの対応		
<b>11</b>	<b>乳児保育における衛生・安全</b> ……………	鈴木幸子	96
	衛生管理と配慮 / 事故防止と安全対策 / 災害対策と危機管理		
<b>12</b>	<b>乳児保育における生活と遊びの実際</b> ……………	植松 愛	108
	0歳児の保育の1日 / 1歳児の保育の1日 / 2歳児の保育の1日		
<b>13</b>	<b>乳児保育における計画と評価</b> ……………	水野恭子	118
	長期的な指導計画と短期的な指導計画 / デイリープログラム / 個別の指導計画 / 記録と評価		
<b>14</b>	<b>多様性をめざす乳児保育</b> ……………	後藤由美	128
	保育ニーズの多様化 / SDGs から考える乳児保育		
<b>15</b>	<b>乳児保育の基本から応用へ</b> ……………	菊地篤子	136
	子どもと保育者との愛着関係 / 子どもの主体性と自己の育ち / 保育者が整える生活環境		
	<b>コラム</b> レッジョ・エミリア・アプローチからの環境づくりのヒント ……………	松園直美	142

## 演習編

- 1 生活の援助 食事編 ..... 高井芳江 144  
乳児期の栄養 / 離乳食と幼児食
  - 2 生活の援助 排泄編 ..... 高井芳江 152  
排泄機能とおむつ交換 / 排泄の自立
  - 3 生活の援助 睡眠編 ..... 國京恵子 160  
1日の生活リズムと睡眠 / 午睡環境
  - 4 生活の援助 着脱編 ..... 松本真理子 168  
衣服の機能と着脱援助 / 着脱の自立
  - 5 生活の援助 清潔編 ..... 松本真理子 176  
沐浴と清拭 / 清潔習慣の始まりと援助
  - 6 体を動かす遊び ..... 森本紗貴子 184  
室内遊び / 戸外遊び
  - 7 人と関わる遊び ..... 森本紗貴子 192  
大人との遊び / 子ども同士の遊び
  - 8 物と関わる遊び ..... 水野恭子 200  
遊具やおもちゃを用いた遊び / 児童文化財との触れ合い
- 索引 ..... 209

# 1

## 乳児保育とは

### 学習のポイント

- ① 乳児保育の目的と意義について学ぶ
- ② 歴史的変遷からみえる乳児保育の変化と乳児保育を取り巻く環境について知る

### 乳児保育の目的と意義

#### 1. 乳児保育とは

保育士養成課程における「乳児保育Ⅰ・Ⅱ」では、乳児保育とは3歳未満児を念頭においた保育を示すとされており、2017(平成29)年改定の保育所保育指針のなかで「乳児」「1歳以上3歳未満児」に分けて明記されている。また、乳児期には、健やかに伸び伸びと育つ身体的発達に関する視点、身近な人と気持ちが通じ合う社会的発達に関する視点、身近なものと関わり感性が育つ精神的発達に関する視点が重要であるとされている。なお、この時期は子どもの成長に個人差が大きいため、一人ひとりの子どもの発達を丁寧に保障していく保育が求められる。

さらに乳児の保育は、子どもの生命の保持および情緒の安定を図るために保育者が行う援助や関わりである「養護」と子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための発達の援助である「教育」が一体となって展開されることに留意しなければならない(中坪ら、2021)。

日本では、深刻な少子化問題、核家族の増加、乳児保育の需要の高まりとともに顕著になった待機児童問題の改善といった多様な課題に対応すべく、保育所保育指針の改定、こども家庭庁の創設など国をあげての政策が行われてきた。同時に保育施設の増加などから保育の質が求められるようになった。

#### ！ 知っておこう

##### 乳児期

保育所保育指針では、「乳児」0歳児、「1歳以上3歳未満児」1、2歳児に分けて明記されている。そのため、保育所保育指針における「乳児期」は0歳児のことを示す。

中坪史典ら、編「保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典」ミネルヴァ書房、2021。p.151.

## 2. 乳児保育における目的・意義

保育所保育指針 第1章1の(1)では、保育所の役割を以下のように示している。

- ア 保育所は、児童福祉法(昭和22年法律第164号)第39条の規定に基づき、保育を必要とする子どもの保育を行い、その健全な心身の発達を図ることを目的とする児童福祉施設であり、入所する子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進することに最もふさわしい生活の場でなければならない。
- イ 保育所は、その目的を達成するために、保育に関する専門性を有する職員が、家庭との緊密な連携の下に、子どもの状況や発達過程を踏まえ、保育所における環境を通して、養護及び教育を一体的に行うことを特性としている。
- ウ 保育所は、入所する子どもを保育するとともに、家庭や地域の様々な社会資源との連携を図りながら、入所する子どもの保護者に対する支援及び地域の子育て家庭に対する支援等を行う役割を担うものである。
- エ 保育所における保育士は、児童福祉法第18条の4の規定を踏まえ、保育所の役割及び機能が適切に発揮されるように、倫理観に裏付けられた専門的知識、技術及び判断をもって、子どもを保育するとともに、子どもの保護者に対する保育に関する指導を行うものであり、その職責を遂行するための専門性の向上に絶えず努めなければならない。

保育所保育指針第1章1の(1)では、保育所の役割について、保育所における意義(下線)と目的(波線)が述べられている。そのなかで、乳児保育では子どもの成長や発達を支え、保護者への支援が必要とされる。ここでいう保護者支援とは、保護者の就労やその他の事由に関する支援のみならず、著しい成長を成し遂げる乳児期に保育を利用する保護者に対して子どもの成長や発達をともに支えることが求められる。

## ● 乳児保育の歴史の変遷

ここでは、児童福祉法が交付された1947(昭和22)年以前から現在までの保育の歴史の変遷と乳児保育を取り巻く社会的背景について概観する。

### 1. 乳児保育のはじまり

#### ■ 明治期から昭和中期まで

児童福祉法制定以前より、日本での福祉事業の始まりは諸説ありさまざまな事業が行われてきた。

1883年、渡辺嘉重が子守学校を開設し、その後1890(明治23)年に赤沢鍾美が妻ナカ(仲子)と託児所を開設し、3歳未満児も保育していたという記録がある。その後、次々と保育施設が開設されていった。1916(大正5)年に双葉幼稚



に過ごす時間が少ないことから、情報を共有することが子どもを育てる喜びにもつながるため丁寧に伝えていきたい。

キーワード

随意運動

自分の意志や意図によって行う運動。

粗大運動

座ったり歩いたり立ったりといった全身運動。

微細運動

手指を使った細やかな調整を必要とする運動。

運動機能の発達

原始反射

新生児期にみられる、ある特定の刺激に対して自動的に行われる行動のことを原始反射という(図3)。原始反射は無意識に行っている不随意運動で、生後2か月ごろから徐々に消えはじめ、外部の刺激に関係なく自発的に体を動かす**随意運動**になっていく。

乳児期の運動

原始反射が消失していくと、次第に随意運動がみられるようになる。随意運動には体の体幹部(胴体)や体肢(足や腕)を中心とした**粗大運動**(図4)と手指などを中心とした**微細運動**(図5)に分けられる。このように、身体の発達とともに運動機能が発達することで、行動範囲が広がり、今まで目にしていた環境だけでなく自らが動き、手を伸ばすことで興味関心がさらに広がる。




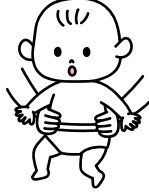
吸啜反射 (0～3か月ごろ)	モロー反射 (0～3か月ごろ)	把握反射 (0～4か月ごろ)	足踏み反射 (0～2か月ごろ)
 <p>口の中に入った物をすう</p>	 <p>外部からの音や光などの刺激に対して、驚いたように手足をビクッとさせたり両腕で万歳のような動作をする</p>	 <p>手のひらに何かが触れるとそれを握ろうとする</p>	 <p>両脇を持ち乳児の体を前方に軽く傾けてみると、両足を前後に出して歩くようなポーズをする ※自動歩行ともいう</p>

図3 原始反射の例

[参考：日本小児神経学会. 小児神経学的検査チャート作成の手引き.]

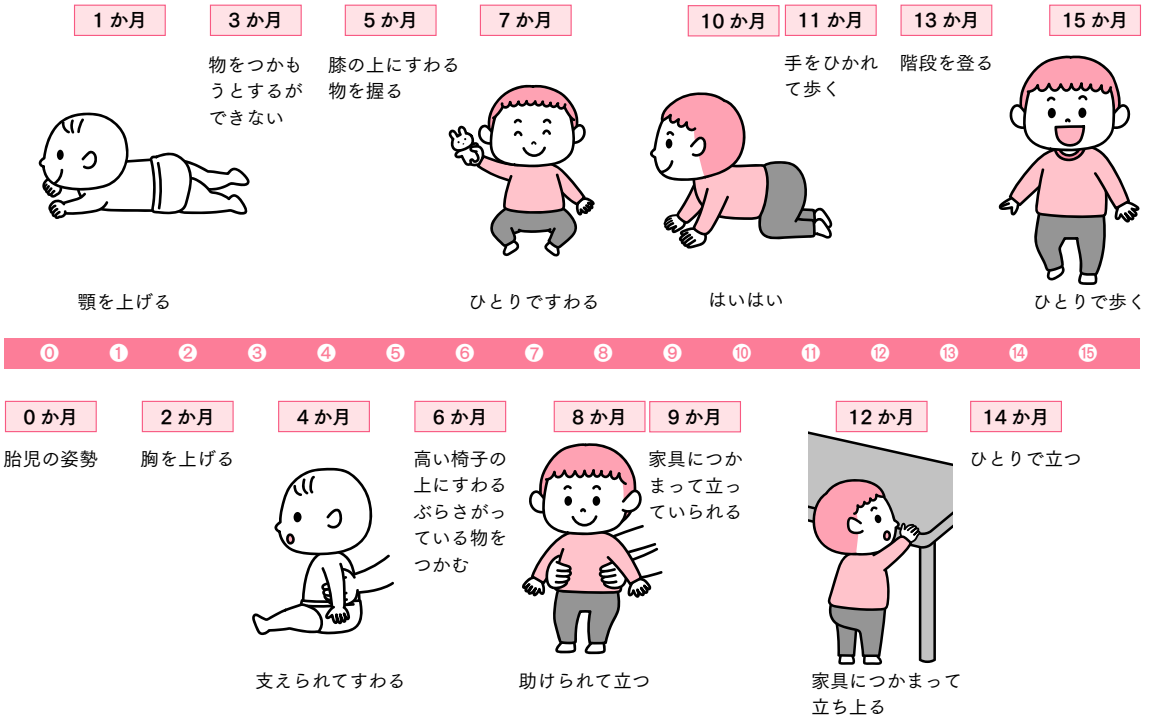


図4 粗大運動の例

[参考：Shirley, M.M. The first two years : a study of twenty-five babies. 1931 : 1. University of Minnesota Press.]

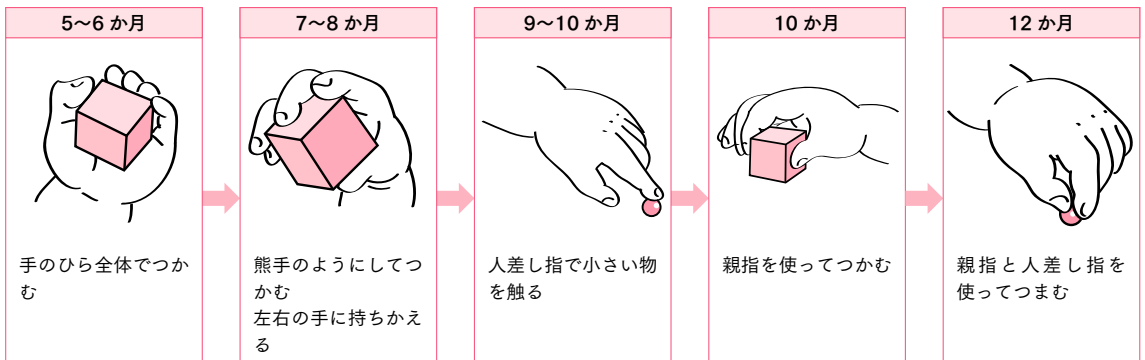


図5 微細運動の獲得の様子

[神道那実ら、運動機能の発達。大西文子、編「子どもの健康と安全 改訂第2版」中山書店、2022.]

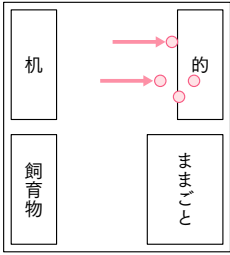
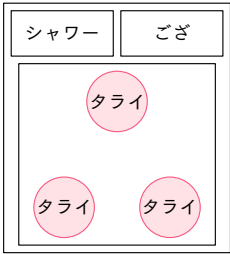
表3 月の指導計画(月案)の例9月(1歳児)

前月末の子どもの姿	ねらい(●養護◎教育)	行事
<ul style="list-style-type: none"> <li>○食事は食具を使って自分で食べようしたり、保育者に手伝ってもらいながら衣服を自分で脱ごうとしたりする</li> <li>○排泄では、トイレの便座に座っておしっこが出る子どもが増えている</li> <li>○室内では傾斜のあるマットを登ったり降りたりして楽しんでいる</li> <li>○戸外ではタライでペットボトルのシャワーや容器に水を入れたり、流したりすることを喜ぶ姿がみられる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●身の回りのことを保育者に支えられながら、自分なりにやってみようとする</li> <li>◎自分の思いや要求を言葉などで伝え、受け止められることで安心して過ごす</li> <li>◎全身を使った遊びを十分に楽しむ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○誕生日会</li> <li>○避難訓練</li> <li>○身体計測</li> <li>○運動会</li> </ul>
	<p>家庭との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○感染予防に留意し、体調管理に気をつけ家庭と連絡を密に取り合うようにする</li> <li>○運動会の親子ふれあい遊びについて、個々の発達に応じて楽しく参加できるように伝える</li> </ul>	<p>健康・安全</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○夏の疲れから体調を崩しやすいため、食事や睡眠の様子を把握する</li> <li>○戸外の活動時間が増えるため、休息と活動のバランスに心がける</li> <li>○高月齢児の活発な行動に十分留意する</li> </ul>

養護	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一人ひとりの健康状態を把握し、発達に応じて適切に対応する</li> <li>○安心して自分の気持ちを表現できるように、一人ひとりの思いを受け止め、応答的に関わる</li> </ul>		
	内容	環境構成★ 保育者の配慮◎	
教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)	低月齢児	<ul style="list-style-type: none"> <li>○衣服の着脱など、自分でできることはやってみようとする</li> <li>○保育者に見守られるなか、好きな遊びを十分に楽しむ</li> <li>○身近な自然に興味をもつ</li> <li>○見つけた物や欲しい物を単語で伝えようとする</li> <li>○わらべうたやふれあい遊びで身体を動かすことを楽しむ(『うまはとしとし』『このここのこ』)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎子どもと向き合い、言葉をかけながら、衣服の着脱の仕方を丁寧に伝えるようにする</li> <li>◎遊びの様子を見守り、共感したり、励ましたりすることで繰り返し遊びを楽しめるようにする</li> <li>◎子どもがしていることや感じていることを保育者が言葉にして共感することで、遊びの満足感が味わえるようにする</li> <li>★ふれあい遊びをしたり、体を動かしたりして遊べるスペースを確保するとともに、転倒した際に危険な物がないよう安全面の配慮をする</li> </ul>
	高月齢児	<ul style="list-style-type: none"> <li>○尿意を感じ排泄したり、衣服の着脱を自分でしようとする</li> <li>○保育者の仲介により、友達と同じ玩具を使ったり、簡単な言葉のやりとりをしたりして遊ぶ</li> <li>○木の実や葉を遊びに使うことで自然物に親しみをもつ</li> <li>○「チョウダイ」「ダメ」など、言葉を使って要求や思いを伝えようとする</li> <li>○わらべうたや体操のリズムに合わせて、歌ったり、体を動かしたりする(『おふねがぎっちらこ』など)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★トイレで排泄する気持ちになるように、トイレの明るさや清潔さに注意し、安心できる空間にする</li> <li>◎自分でやってみようとする姿を見守り、認め、自分でできた心地よさを感じられるようにする</li> <li>★友達との関わりが増えることで玩具の取り合いを想定し、玩具の数を十分に用意し、スペースを確保する</li> <li>◎友達との簡単なやりとりが楽しめるように、保育者が丁寧に仲介をする</li> <li>★砂や土、木の実や木の葉など、身近な自然に興味をもてるように環境を整える</li> <li>◎子どもの興味に応じて、体操の音楽を用意し、保育者も一緒に踊ったり、触れ合ったりする</li> </ul>

(筆者作成)

表4 部分指導計画(午前の主活動)の例 8月(2歳児)

時間	環境構成	予想される子どもの姿	保育者の援助・配慮
ねらい	<b>【室内遊び】</b> ・ボールを投げて的当てをしたり、カブトムシを見たり、触れたりする ・ごっこ遊びでは、保育者や友達と簡単な言葉のやりとりを楽しむ <b>【戸外：水遊び】</b> ・保育者や友達と一緒に水遊びや感触遊びを楽しむ		
10:20    10:55  11:20	<b>【室内遊び】</b> 1グループ  ・子どもが好きな遊びを選べるようにコーナーを設定する ・的当ての投げる線を前後2か所貼っておく	○恐竜的に向かってボールを投げる。線から投げて当てる子どもや投げても届かない子どもがいる ○保育者や友達と一緒に、カブトムシを見たり、触れたりする ○ままごとごっこをして、食材を鍋に入れたり、おたまですくったりして皿に盛る ・片づけをする ・排泄をする ○給食を食べる	◎的当てでは、遊びに参加する子どもが増えた場合には、ボールの玉を増やせるように準備しておく ◎一人ひとり投げる意欲を認めたり、励ましたりし、満足感が得られるようにする ◎カブトムシに興味はあるが、怖がる子どもには、飼育ケースの蓋を開けて見せたり、絵本と一緒にみたりできるようにする ◎友達の思いを代弁しながら、簡単なごっこ遊びを楽しめるようにする ◎保育者が率先して片付ける姿をみせるとともにきれいになった気持ちよさを伝える
10:20    10:55  11:20	<b>【戸外：水遊び】</b> 2グループ  ・個々にゆったりと遊べるように、タライ3つをシートの上に配置し、水を入れておく ・十分に遊びが楽しめるようにペットボトルのシャワーを人数分用意する	○テラスで一人ずつ水遊び前のシャワーを浴びる ○水遊びをする ・ペットボトルシャワーに水を入れて保育者にかける ・たらいの水に入っている魚の玩具を拾って容器に集める ○テント外の泥水に手を入れて感触を楽しむ子どもがいる ・片づけをする ・排泄をする ○給食を食べる	◎清潔な体で水遊びが始められるように丁寧にシャワーを行うようにする ◎思い思いに遊ぶ姿を見守ったり、共感的に言葉をかけ、一人ひとりが満足して遊ぶことができるように関わる ◎保育者も子どもと一緒に遊ぶなかで、水遊びの楽しみ方を見せたり伝えたりする ◎泥遊びで感触を楽しむ遊びも保障できるように日陰を作るようにする ◎着替えではパンツやおむつを持つところを知らせ、自分で履けるようにしたり、発達に応じて援助したりする

(筆者作成)